

予想を超えたスピードで激変する世界経済。難局を乗り切るための一手を語る羽生棋聖と経済評論家の勝間さん。危機的状況に直面しても萎縮せず、変えるべきところは変え、冷静に先を見極めて積極的にアクセルを踏むべきだ—と元気だ
(早坂洋祐撮影)

も一人で精いっぱい、ごめんなどという話になってしまふ。

羽生 育児経験が悪いってどういうことですか。

勝間 孤独なんですよ。誰も助けてくれない。一人でもついでになっちゃうんですよ。羽生さんは家事は。

羽生 家事は全くしないです。限りなくというか、ゼロです。なにもしません。

勝間 確かに、仕事をフルタイムでやって、その上、育児、家事は勘弁してくれというのは本音だと思います。男性側の仕事の負荷が軽くならないと。今提案しているのは「ババクオーター」という制度で、育児休暇を男性が強制的に取るものです。実際に育児、家事を体験してもらえば奥さんの大変さもわかるだろうという発想です。

羽生 現状ですすぐに労働時間の削減は難しいです。

勝間 EUのように「残業を含めて週48時間以内にしなさい」という指針があれば随分変わりますよ。

羽生 確かに、それをしない限りは、なかなか現実のものとならないかもしれません。日本が豊かになったことは間違いないんですけど、ヨーロッパのような基盤の部分からの全体的な豊かさはまだ実感できてない。どうしてか、一生懸命働き続けていかなければ支えることができないという気がします。

休暇
つじやな
くパラダ
くさなけ
日本で
あつた場
るんで
一方、全
てです。
経験はも
たから、
たとして

大きな危機だから 底力が出る

■新発想 若者から

国全体が豊かというか、中間層が厚いというか

羽生 私、欧州へチェスの大会へ行くと、すごくそれを感じるんですよ。普通10日間ぐらいの大会で1日1試合。というところは、参加する人は10日間全部仕事を休んでる。日本で将棋の大会で「10日間ぶっ続けでやりますから参加してください」といったら、誰も参加しないですよ。豊かさの二つのリトマス試験紙のようですが、アメリカでは5日間で1日2試合する。

勝間 日本は1日3試合、3日間だったとして。

羽生 それこそ土日祝日とかも入れて。今の日本で、普通に勤めている人たちが、「じゃ、私ちょっとこれから2週間休暇取ります」とか、「1カ月月失礼します」とかというのがぼこぼこ出てきたときに、社会が成り立つ

のかどうか。

日本の企業人はよく働きま

すから

羽生 そして、働いてばかりでつまらないということではないと思うんです。楽しみや充実感があつたはずですよ。ただ、そこは今の若い人たちと感覚のずれというのがあるのかなという気はすごくして、例えば出世を

したいとか、偉くなりたいとか、そういう欲って大変そうだからというふうな風潮がかなりあるような気がします。

勝間 人口減少社会ではポストがないので、偉くなる

うとしてもなかなかないんで

すよ。だったら偉くならなくてもいいやというところに短絡してしまふんですよ。

羽生 もったいない話ですよ。ね。若い人の潜在能力はすごい。最近、将棋の最先端の形って三段とか四段とか、まだ正式なプロになっていないぐらいの人から出てくるケースが多いんですよ。もちろん、出てきたアイデアが全部そのまま主流になるわけじゃないんですけど、出た芽が、いろんな新しい発想とか、作戦につながるっていいですよ。

勝間 ベテランの立場がありませんね

羽生 いえ。年齢を重ねていくとメンタルの強さが出る。どんな場面でも動じないとか、客観的に冷静に判断ができるという、それは若手にはできない。ただし、今までになかったものをつくり出すのは若手が得意。世代世代の長所をうまく融合できれば一番いいと思います。



■長期的な視点を

こうしたピンチの年は変化のチャンスかもしれません

羽生 気をつけなければならぬのは、状況が厳しい時は、すぐに結果を求めてしまいがちになることです。将棋の世界でも、今日星が欲しいと思うと、勝つ可能性が高いほうに行ってしまう。リスクの高い何かをやるのではなく、安全策を取る。学べば学ぶほど、知れば知るほど、うまくいかなかったときが頭をよぎり、自然にアクセルを踏まずにブレーキを踏んでしまう。しかし、成長するためには意識的にかなり強めにアクセルを踏み続けるべからぬの感じでしょうかいいのかもしれない。

萎縮してはいけない

■勝間

長期的な視点を持つ必要がある。例えば、私たちは政治家に即効性のあるものばかり求めて、即効性のあることをやった政治家だけ当選させる。政治家だけが当然、即効性のあることだけしたくなります。しかし、それでは何の根本解決にも至らない。だから、長期的な視点を持つ必要があつて、そのために私たちはもっと、もっと勉強しなければいけない。

勝間 子供も大人も勉強しなければ。さて、今年はどうなる年になるのでしょうか

羽生 いろんなものの仕組みの見直しが入ると思えます。貧困や教育対策とかを含めて、結局どういう社会を私たちが作らなければいけないのか、家庭と企業のバランスの取り方などに抜本的な見直しが入る年だと思います。

勝間 いろいろあるときに試してみよう

羽生 いや、実際にやってみないと学べないことあるんで、たごえ負けてしまつても、それによって自分自身が見えてくるものがあるんですよ。

勝間 余裕があるときに試してみよう

羽生 いや、実際にやってみないと学べないことあるんで、たごえ負けてしまつても、それによって自分自身が見えてくるものがあるんですよ。

勝間 余裕があるときに試してみよう

羽生 いや、実際にやってみないと学べないことあるんで、たごえ負けてしまつても、それによって自分自身が見えてくるものがあるんですよ。

勝間 余裕があるときに試してみよう

羽生 いや、実際にやってみないと学べないことあるんで、たごえ負けてしまつても、それによって自分自身が見えてくるものがあるんですよ。

勝間 余裕があるときに試してみよう

羽生 いや、実際にやってみないと学べないことあるんで、たごえ負けてしまつても、それによって自分自身が見えてくるものがあるんですよ。

羽生善治 (はぶ・よしはる) 将棋棋士。現在は4冠(棋聖、名人、王座、王将)で、6つの永世称号(永世名人、永世棋聖、永世王位、名誉王座、永世棋王、永世王将)を持ち、残るは永世竜王のみ。平成8年の7冠独占後、1冠まで転落するが、すぐに奇跡の復活を遂げる。終盤戦で相手の意表を突き、逆転に持ち込む寄せ手は羽生マジックと呼ばれる。38歳。